

第79回 のびのび育ちの会

2026年8月5日（水）18:30～20:30

指伝話メモリを機会として使う

有限会社オフィス結アジア

高橋宜盟

本日は、勉強会にご参加いただき、ありがとうございます。

今日お話しするのは、指伝話メモリの操作方法ではありません。指伝話メモリを通して、コミュニケーション支援やアクセシビリティをどのように考えるか、その土台となる考え方を共有したいと思います。

指伝話メモリは、単なるコミュニケーション機器ではありません。人と人が出会う機会、できることを見つける機会、本人を知る機会をつくるための道具でもあります。

例年通り、画面投影のスライドはタイトルが書いてあるだけのものが多いので、スライドのPDFをお配りはしませんが、お話する内容の概要をまとめた資料として、この書類を共有します。

ご活用いただければ幸いです。

また、最後に、是非ご覧いただきたい動画や資料のQRコードを掲載した資料も付けておきます。

勉強会に参加してご不明なことがございましたら、どうぞ遠慮なくいつでもメールでお知らせください。

メール： yui@yubidenwa.jp

本日の話題

1. アクセシビリティってなんだろう？

ここ数年、「アクセシビリティ」という言葉が多く話題になってきています。特に「ウェブアクセシビリティ」「情報アクセシビリティ」「デジタルアクセシビリティ」というように、さまざまなところでアクセシビリティという言葉が使われるようになりました。

私は、アクセシビリティを一言で言うと「自由」と表現しています。それは、

「複数の選択肢から自分の意思で選ぶことができる自由。」

そして、選ばなくてもいいという選択肢があることを知っている自由。」

です。

その意味と、考え方としてのアクセシビリティの背景について、分かりやすく解説します。

2. コミュニケーション支援は、どこから手をつけ、どう考える？

「コミュニケーション支援で、具体的にすぐにできることを知りたい、できれば簡単なものを教えて欲しい」と聞かれることがとても多くあります。

私がまず最初にお伝えすることは「魔法はない」ことです。しかしそれはがっかりすることではなく朗報だと思います。つまり、タネも仕掛けもあるので、それを理解すればできるようになるということです。

「簡単なもの」とは誰にとってのことでしょうか。もし、支援を必要としている人と、支援をする人との立場に分かれて考えるとしたら、どちらにとって簡単なものを求めているのでしょうか。これについて解説をします。

3. 機器導入中心の考え方から少し離れてみよう

「身体が不自由だからスイッチを使う。」「動くところがないから視線入力がいい。」「せめて、はい・いいえを言えたらいいんだけど。」「五十音表で伝えたいことを伝えられたらいいね。」「スイッチの適合が一番大事だ。」

私は、これらの言葉を何度も聞いてきましたが、そう言っているのは本人ではなく、周囲の人たちです。そして、その言葉は何年たってもあまり変わりません。

だから、一度ここから離れた方がいいと私は思います。これについて、一緒に考えてみたいと思います。

4. 「やりたいこと」から考えるアクセシビリティ

誰もが、それがいいと合意してくれることだと思いますが、奥が深い内容です。

「やりたいこと」は、「いま」「いずれ」「将来」のいつのことを指していますか？

「やりたいこと」を考える時に「やれること」についても考えることがあります。

そして、周囲や社会が「やらせたいこと」、本人も周囲や社会が「やってきたこと」があっただけです。いまですから、「やりたいこと」は今の一点のことだけではないでしょう。

また、「（本人が）やりたいと（周囲は）思ってた」「やれる方法があると（周囲は）知らなかった」ということがよくあります。

5. リハビリテーションと日常生活の質の向上について

リハビリテーションでは、身体機能の改善を目標とする場面が多くあります。一方で日常生活では、現在の状態を前提として、生活の質をどのように高めるかを考えます。そのため、注目するものや支援の進め方が異なることがあります。

どちらがいいとか悪いとかではありませんが、その考え方を知っていることで、これから先の道の見え方が変わってくると思います。

6. 「何の障害か？」ではなく「何が障壁か？」と考える

やらない理由は100でもすぐにでてきますが、やるための工夫がなかなかでてこない。楽しいはずのアイデア出しが進まないところに、障壁があります。

病気や障害そのものが問題なのではなく、今の状態を当たり前として、より良い生活を求めることが誰にでもできる社会であってほしいと思います。そうではないところが「社会の障壁」です。

7. 困ってなければ、支援は不要なのだろうか？

困っている人に対して手を差し伸べることが支援だとすると、困ってない場合には支援は不要なのでしょうか？無理やり押し売りする必要はありませんが、必要であることに気づかない人への情報提供やサポートは、相手が困ってないと思っていても必要なこともあります。

子どもは自分で判断できないから親が決断する場面は多くありますが、親は不要だと思っていても子どもは必要としていることはないのでしょうか。一緒に考えてみたいと思います。

8. どんな状態にある子であれば、ICT機器が活用できるのだろうか？

私は、厳密ではなく大きく分けて、まず6段階くらいで、出会った人の様子を把握します。

これは能力を評価するためではなく、私自身が支援方法を考えるための整理です。

- 1) 何も反応がない
- 2) 呼びかけに反応する
- 3) こちら（やこちらが示すものは）見えていないが、随意で動く場所がある
- 4) こちらの呼びかけに対して、随意で反応することができる
- 5) こちらを見て、随意で反応できる
- 6) タイミングよく連続して反応がだせる

もしこのレベルで分類するとしたら、どの段階からICTを活用できると思いますか？

私は、それぞれの段階に応じた活用方法を考えます。その方法や考え方の背景を共有します。

9. 最初のきっかけづくりの方法例

スイッチを使った最初のきっかけ作りの方法を2つご紹介します。

1つ目は、指伝話メモリの活用の基本でもある「めくってタップで自己紹介」です。初めてスイッチを接続してiPadを使う人のために、安価で簡単に使えるスイッチインタフェースもご紹介します。2つ目は、ショートカットを利用した「音楽プレイリストの再生」です。

10. どうしたらいいかわからない時は、一人で悩まない

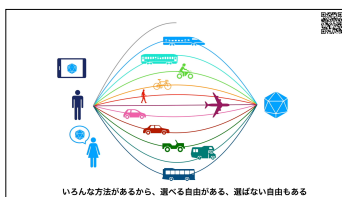
今日お伝えしたかったことは、「できない理由」を探すことではなく、「できる方法」を一緒に考えることです。

指伝話メモリも、そのための答えではなく、最初のきっかけをつくる一つの「**機会**」です。

アクセシビリティとは、「できないこと」を減らすことではなく、「選べる方法」を増やすこと。
だから、一人で悩まないでください。

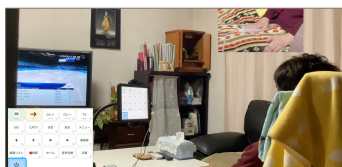
みんなで一緒に考えましょう。

情報共有



動画 アクセシビリティってなんだろう？

アクセシビリティという考え方を、わかりやすく説明する約2分の動画です。



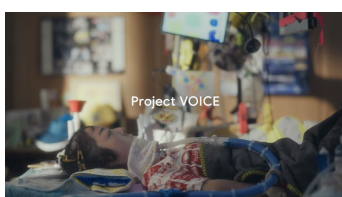
動画 アクセシビリティ機器（iPad）導入について

難病や障害のある方が、iPadのアクセシビリティ機器を活用している映像を含めて、アクセシビリティの考え方をお伝えする約20分の動画です。



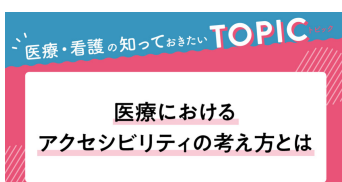
動画 ReHacQ アクセシビリティの回（後半）

【ひろゆきvs難病】意思疎通の扉を開く！
突然すべて失った当事者が語る“希望を持たたワケ”とは？
高橋宜盟も出演しています。



動画 Project VOICE

GoogleのAIを活用して人の可能性を高めるプロジェクトです。
アクセシビリティ・コーディネーターとして高橋宜盟が参加しています。



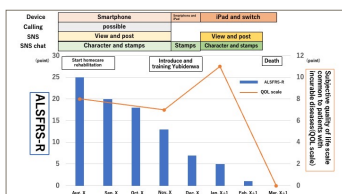
記事 医療におけるアクセシビリティの考え方とは

看護師向け専門誌「エキスパートナース」に執筆した記事がウェブで公開されています。医療関係者向けではなく、誰にでもわかりやすくアクセシビリティのことを知っていただける記事です。



書籍 iPadスイッチコントロール解説書

アクセシビリティ機能ガイド～iPadスイッチコントロール編～
東京慈恵会医科大学アクセシビリティ・サポート・センター編
スイッチコントロールの基礎を理解するために最適な本です。



論文 筋萎縮性側索硬化症に対してアクセシビリティ機器を使用しQOLを改善することができた1例

ALSの入院患者に対してアクセシビリティ機器の導入をしたところADLが低下している中でもQOLの向上が見られた事例

鈴木慎ら 2024, 東京慈恵会医科大学雑誌第139巻第1号

